ウルトラマンＧ（グレート）（1990）

メディア オリジナルビデオ
ジャンル 特撮
製作国 日本
色彩 Color
TV放映 1990/09/25 ～

【解説】
　火星で資源探索を行っていたジャック・シンドーとスタンレー・ハガードは銀色の巨人と醜悪な怪物ゴーデスの戦いに巻き込まれて行方不明となる。ゴーデスは無数の緑色の胞子となって地球に逃亡、このゴーデス細胞に取り付かれた生物が次々に怪獣化してしまう。怪獣との戦闘の最中、国際的軍事組織ＵＭＡ(ユーマ)のエコー隊員は遭難したはずのジャックと出会い、その直後に再び銀色の巨人が現れ怪獣を倒す。ジャックはＵＭＡに入隊し数々の対怪獣戦で活躍するが彼の前に死んだはずのスタンレーが現れる！
　アニメで製作された『ウルトラマンＵＳＡ』に続いて、海外セールスを夢見る円谷プロが着手した新ウルトラマン。また、従来のＴＶ放映・映画封切りという公開形態と異なるビデオソフトの展開を主眼とした初のシリーズでもある。製作は英語圏という条件にかなったオーストラリアで行われ、グレートと怪獣の格闘の大半は広大な土地を利用したオープンで撮影されている。出演者もすべてオーストラリアの俳優だが東洋系や黒人もバランスよく配置されているため思ったほど違和感が少ない。
　ミニチュア効果を主とした特撮の監督は『タイム・ガーディアン』（日本ではビデオ発売）のポール・ニコラが担当、マペットを効果的に使ったショットが印象的であり、特にＵＭＡ戦闘機ハマーが格納庫から発進するまでは劇場作品と遜色ない仕上がりである（最も直後のビデオ合成による安っぽい飛行シーンが興を削ぐが）。当初は格闘シーンもマペットやモデルアニメで処理される予定だったが、円谷側の要請により従来のスーツメーションとなった（良かった……）。このスーツ製作を担当したのがボブ・マッカロンでこの後『ＡＣＲＩ』や「ライフカード」のＣＭ等で日本との関係も深い。またこのころ各種メディアで特撮マニアぶりを見せていた京本政樹が本格的に企画に加わり、『グレート』のネーミングやジャックの声、はたまた主題歌とまさに八面六臂の活躍をしている。
　販売促進のためかグレートの第８話からは『新ウルトラマンＧ　必殺！怪獣大決戦』と新シリーズのように銘打って発売されている。各巻サブタイトルがつけられていて第一巻…地球征服編（マジャバ、バイオス）、第二巻…宇宙侵略編（リュグロー、ＵＦ－０）、第三巻…人類滅亡編（コダラー、シラリー）と大仰な文句でバイヤーの興味を引こうとしているところが微笑ましい。しかし、でっかい虫が出るだけのマジャバの回が地球征服といわれてもねえ……。

【クレジット】

監督	アンドリュー・プラウズ	Andrrew Prowse
製作総指揮	円谷皐	
	リチャード・ワトソン	
プロデューサー	鈴木清	
	スー・ワイルド	
原案	会川昇	
	宮沢秀則	
	小中千昭	
	遠藤明範	
	鈴木智	
脚本	テリー・ラーセン	Terry Larsen

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

撮影	ポール・ダルウィッツ		
特撮監督	ポール・ニコラ		
美術	ケン・ジェームズ		
編集	リチャード・ハインドレイ		
	ニコラス・ホームズ		
音楽	風戸慎介		
ＳＦＸコンサルタント	高野宏一		
特技・撮影	スティーブ・ニューマン		
特技・美術	ビル・バスモア		
出演	ドーレ・クラウス		ジャック・シンドー／ウルトラマンＧ
	ラルフ・コトリール	Ralph Cotterill	アーサー・グラント（ＵＭＡ隊長）
	ジーヤ・カリディス		ジーン・エコー
	リック・アダムス		ロイド・ワイルダー
	ロイド・モーリス		チャールズ・モルガン
	ジーン・バー	Jeanne Barr	キム・キャニオン
	ジェイ・ハケット	Jay Hackett	スタンレー・ハガード
声の出演	京本政樹		ジャック・シンドーの声
	小林昭二		アーサー・グラントの声
	榊原良子		ジーン・エコーの声
	山寺宏一		ロイド・ワイルダーの声
	柳沢慎吾		チャールズ・モルガンの声
	平野文		キム・キャニオンの声
	津田英三		スタンレー・ハガードの声

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.